

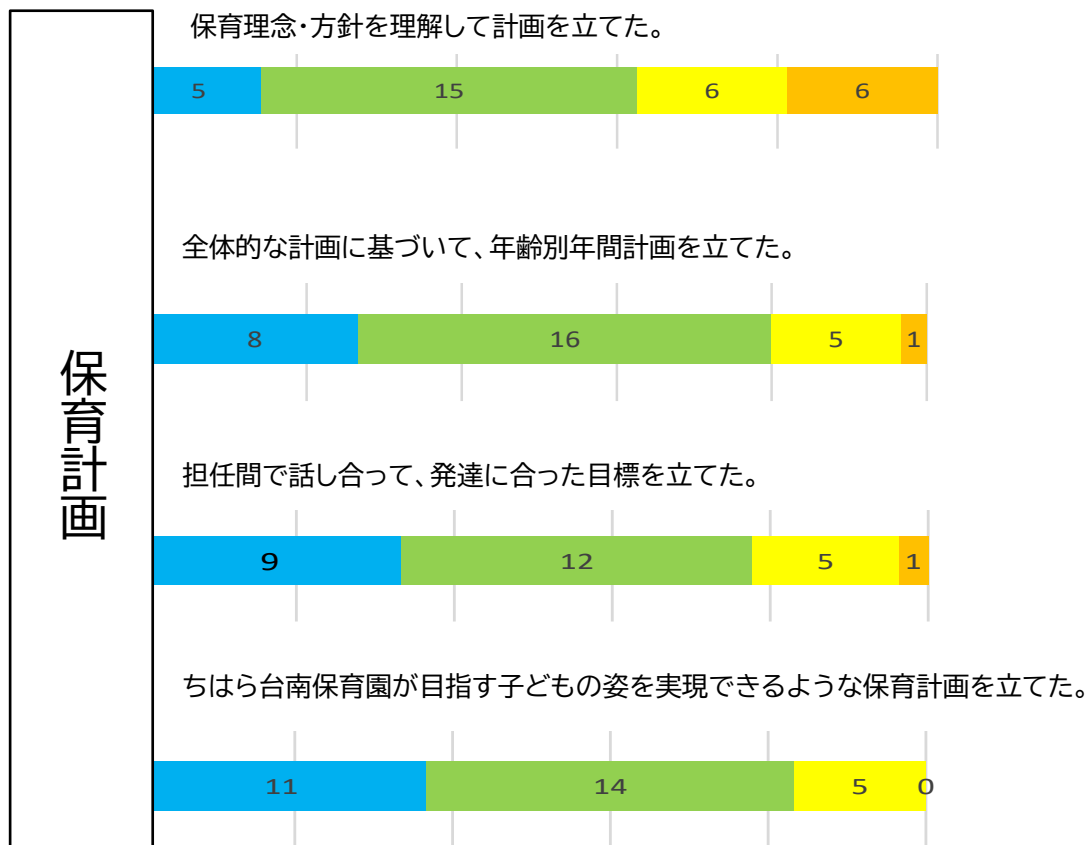
# 令和5年度 ちはら台南保育園 自己評価

保育所保育指針では、『保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえて、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。』事が記されています。このことに基づき、ちはら台南保育園では自己評価を実施しております。評価結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供していけるよう努力していきます。

## 保育士の自己評価

よくできた    できた    改善が必要    改善しなければならない

単位=人



保育実践

保育理念を理解し、日々の保育で実践しようと努めている。



全体的な計画を意識して保育に取り組んでいる。



日々の振り返りの中で気づきを意識して保育に取り組んでいる。



園の目標を踏まえ、目指す子どもの姿を意識して保育に取り組んでいる。



環境作り

子どもの発達を促すための環境作りを心掛けている。



常に遊具・玩具・教材の安全確認を行い、定期的に洗浄・消毒をしている。



子どもの姿を見ながら、臨機応変・計画的に環境作りを行っている。



保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育室作りを心掛けている。



子どもへの関わり

ひとり一人の子どもと丁寧に関わるよう心掛けている。



ひとり一人の思いを受け止め、その思いをできるだけ実現させようと努めている。



ひとり一人の子どもの育ちのねらいと課題を明確にし、見通しを持って関わっている。



ひとり一人の子どもの話を同じ目線で聴き、丁寧に関わっている。



保護者対応

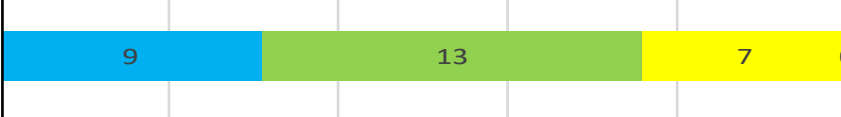
保護者に対して、丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心掛けている。



送迎時に子どもの姿を必ず伝えている。

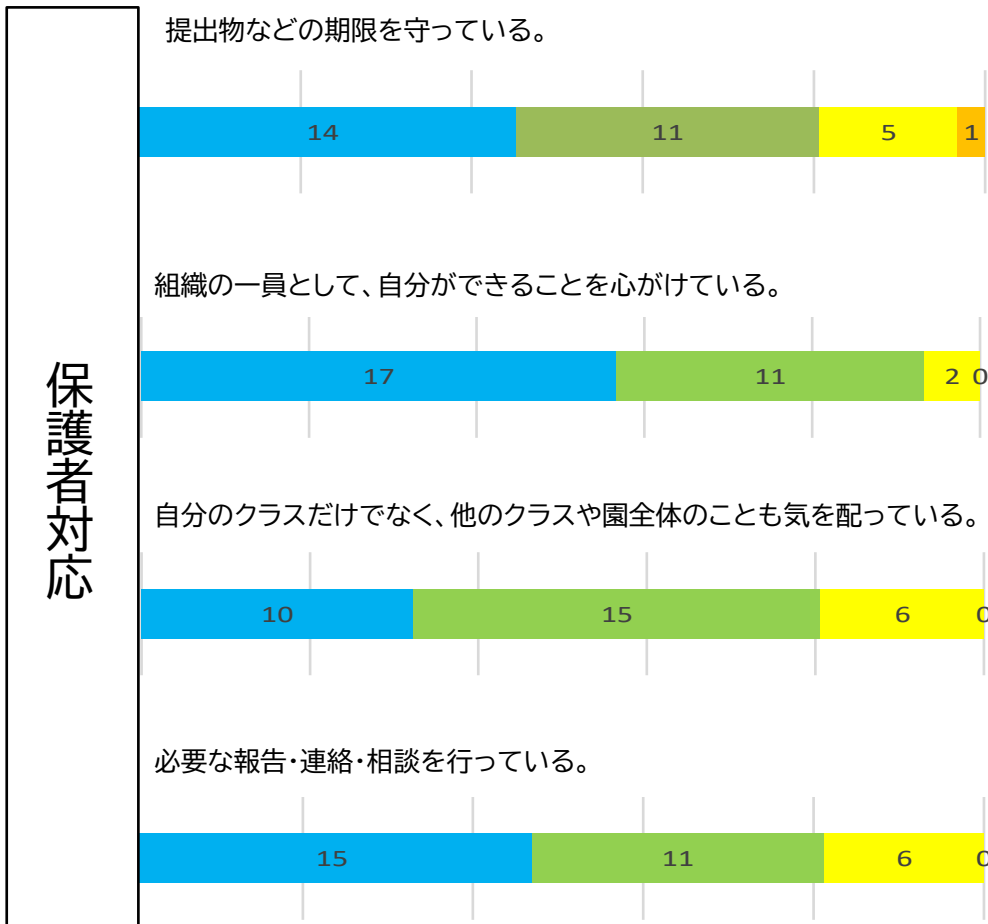


子どもの成長や課題を保護者に伝え、連絡をとっている。



来園する見学者、訪問者に自分から気持ちの良い挨拶をしている。





### 保育園全体の評価

今年度は、「子ども主体の保育実現のための、振り返りとより良い環境を整える」という目標を立て、子どもたち、保護者ひとり一人に丁寧に向き合っていくために、日々の振り返りを行った。丁寧な関わりと子どもたちの小さな成長を見逃さずに、保育計画に繋げていくようにした。日々の変化に着目し、遊びの展開や生活習慣を育くむための関わりを、クラス担任みんなで協力することを大切にした。しかしながら、クラスによりまとまりの度合いに差がでてしまうことがあった。

行事においては、世代間交流をして下さっていた地域の団体が、3年間のコロナ後解散となってしまったので、園児の兄弟姉妹、保護者も参加の異年齢児交流に変更し、久しぶりに賑やかな催しを行うことができた。これにより、保護者と一緒に子どもたちの成長を喜ぶ機会ができたことは、初年度からの園目標に沿った活動になったことが、良かったと思う。

年度の後半には、不適切保育を学ぶ研修を園長、主任が参加し、これからの保育を考えていく機会ができた。

### 令和6年度の課題

1. 子ども、保護者との信頼関係をより深く築いていくために、苦情窓口だけでなく相談担当保育士を配置し、保護者が相談しやすい環境づくりをする。
2. 昨年の反省から、クラスによりチームワーク力の差を縮めていくための、園内研修を行っていく。
3. 保護者送迎時の安全確保のための体制を考えていく。